

なを深めた親善交流

那覇・日南姉妹都市提携30周年記念式典



式典であいさつする北川昌典市長

那覇・日南姉妹都市提携三十周年

那覇・日南姉妹都市提携三十周年記念式典が、十月十日に那覇市で、続いて十月十六日に日南市でそれぞれ行われ、両市の親善訪問団が交流を行い、お互いの「友好」と「きずな」をさらに深めました。

日南市は戦時中、那覇市からの集団疎開を受入れたことや戦前から鉄肥杉の取り引きが盛んで、また、那覇市が戦後の戦災復興策として鉄肥杉を多く使用したことや本市が沖縄県の緑化運動に協力したことが縁となり、昭和四十四年四月二十四日に姉妹都市提携の盟約を結びました。それから三十年、両市は文化、産業、スポーツなどの交流が行政、民間レベルで行われ、ますます友好が深まっています。

三十周年記念式典

両市の発展を目指し 友好を深める

姉妹都市提携の盟約を結んでから三十年目の今年十月十日に、那覇・日南姉妹都市提携三十周年記念式典が、両市の関係者約二百人が出席し、那覇市内のホテルで行われました。本市からは、北川市長をはじめ田中静日南市姉妹都市友好協会会長や各業界の代表、一般公募の参加者、鉄肥小学校の児童など総勢七十三人が式典に参加しました。

式典ではまず、両市の市歌が斉唱され、引き続き両市長のあいさつが行われました。親泊康晴那覇市長は「沖縄県と宮崎

県は、九州・沖縄サミットで全国から注目されている。その中で両市の交流は意義深いものであり、今後とも力を合わせて、友情を深めていかなければならない」と、また、北川市長は「文化、産業、スポーツの面で交流が発展してきた。今後とも交流を深め、両市の発展を目指していかなければならない」とあいさつし、互いに、両市の交流、親睦を再確認しました。

また、十七年間の永きにわたり、那覇市家庭婦人バレーボール連盟と試合を通して交流を行っている功績として、日南市家庭婦人バレーボール連盟（代表中津キミ子さん）に表彰状が贈られました。



式典の後、祝賀会が行われ、両市の郷土芸能であるみやびやかな「琉球舞踊」と勇壮な「泰平踊」が披露され、祝賀会を盛り上げるとともに出席者から大

三十年前の盟約式

昭和四十四年四月二十四日に那覇市と日南市は、鉄肥杉の取り引きや集団疎開の受け入れなど産業、経済、人的交流の縁で、姉妹都市提携の盟約を結びました。

当時の井戸川一日南市長らが那覇市役所を訪れ、井戸川市長と平良良松那覇市長（当時）の間で盟約書に署名が交わされ、両市の市旗が交換されるなど、互いの「きずな」が結ばれ、今日まで両市の交流が盛んに行われています。

また、当時、北川市長は日南市議会、田中静日南市姉妹都市友好協会会長は日南商工会議所の代表として、親泊那覇市長は那覇市役所の総務部長として盟約式に参加しています。三十年後の記念式典に三名が顔を合わせるのも何かの縁で、両市のきずなを感じるものでした。



盟約式で両市の旗を交換する井戸川日南市長(左)と平良那覇市長(右)

両市の主な交流の歩み

昭和44年度	那覇・日南姉妹都市提携
昭和54年度	姉妹都市提携10周年記念式典(両市にて) 油津港まつりで「那覇の物産展」を開催 日南市制施行30周年記念式典への参加 那覇・日南親善高校野球大会(～昭和57年)
昭和58年度	那覇・日南親善家庭婦人バレーボール大会(～現在) 市議会議員のスポーツ親善(～昭和63年)
昭和62年度	「那覇市少年の船」日南市を訪問
平成元年度	両市長等による20周年記念通話 姉妹都市提携20周年記念式典(両市にて)
平成2年度	岩崎銀天街に「那覇通り」誕生
平成3年度	那覇市制施行70周年記念式典参加(那覇市)
平成4年度	日南市から日南市特産の飫肥杉の公衆電話ボックスを 那覇市へ寄贈
平成6年度	親善少年野球大会(～現在)
平成7年度	那覇・日南友好市民の森設置記念植樹祭(日南市) 赤瓦屋根公衆電話ボックスが那覇市から寄贈される
平成8年度	那覇・日南友好市民の森植樹祭(日南市) 飫肥杉会館落成式に参加(那覇市) 那覇市制75周年記念式典に参加(那覇市)
平成10年度	「那覇市家庭婦人バレーボール連盟」結成20周年 記念式典参加(那覇市)
平成11年度	両市長等による30周年記念テレビ電話通話 姉妹都市提携30周年記念式典の開催(両市にて)

両市のきずな

祝 那覇



神山陽子さん(左)
翁長那智子さん(右)

きな拍手が送られました。
式典に参加した日南市訪問団の猪崎良子さんは「那覇市の人たちは日南市の事に関して情熱的に接し、取り組んでいる感じがし、また、空港では盛大な

歓迎を受けて、感動しました」などの声も多く聞かれ、参加者の方々は那覇市民の温かさに感激した様子でした。
那覇市側の式典参加者で、教育委員として「那覇少年の船」に携わったことのある神山陽子さんと本市の出身である翁長那智子さん(油津出身、旧姓井上)は本市の印象を「『日南』という言葉を耳にすると胸が熱くなります。日南市民は優しいイメージがあります」と答え、また、泰平踊を「ご覧になり「泰平踊は風格と歴史の重みがあり、伝統文化の伝承に努めているのは、日南市と那覇市との共通点です。今後も、今まで以上に交流を深めていきたいものです」と語っていました。

那覇市訪問団が来南

十月十六日には那覇市からの訪問団約八十人が本市を訪れ、保健福祉総合センターで那覇・日南姉妹都市提携三十周年記念式典が行われました。
式典では、両市の市長が「両市の交流ときずなを深めていきたい」と改めて確認し合いました。

また、式典の中で、那覇市青

両市のまつりに参加

少年健全育成市民会議会長の平良松善さんに表彰状が贈られました。同会議の受章は、毎年八月に那覇市の児童が本市を訪れ、両市の児童が郷土芸能である「泰平踊」と「エイサー」を踊り、文化交流を行っている「那覇少年の船」にご尽力いただいている功績をたたえたもので、今後とも教育、文化の交流が盛んに図られることを願うものになりました。

本市と那覇市の訪問団は、それぞれ両市で行われた、市民まつりにも参加しました。

十月九日午後一時三十分、本市の訪問団は那覇空港に到着。

那覇市の温かい歓迎を受けた後、那覇まつりの市民演芸・民俗伝統芸能パレード参加のために那覇市の国際通りに移動。午後三時、気温三十度を超す厳しい残暑の中、暑い日差しを受けながら親泊那覇市長と北川市長を先頭にパレードがスタート。日南サンフレッシュレディと本市訪問団の一行も六番目に登場し、場内アナウンスで「日南市訪問団」が紹介されると、沿道に詰めかけた大勢の観光客や那覇市民などからひととき大きな拍手が沸き上がりました。一行は笑顔で手を振り沿道の声援に応え、



パレードに参加する日南市訪問団

国際通りを行進しました。
また、パレードでは福岡市の

「どんたく」や徳島市の「阿波踊り」などが披露される中、本市を代表して飢肥小学校の児童十五名が「泰平踊」を大勢の観光客の前で披露しました。観光客などは、泰平踊独特の勇壮で優雅な踊りに酔いしれた様子でした。

泰平踊を踊った飢肥小学校六年生の笠 秀太郎君（向原）は「大勢の前で踊るのはたいへん緊張しました。暑かったけど練習の成果が出てよかった」と満足した様子で話してくれました。十五人の児童たちにとって貴重な経験になりました。

また、那覇まつりで日南音頭を観ることが出来ました。日南音頭を披露していたのは日南市家庭婦人バレーボール連盟と民間レベルで交流を行っている那覇市家庭婦人バレーボール連盟の方などで構成する、那覇市都市提携市民の会日南部会約六十人のみなさんでした。毎年、那覇まつりで踊っている



「暑かったけどがんばりました」
泰平踊を披露した飢肥小学校の児童のみなさん



日南音頭を披露する那覇市都市提携市民の会日南部会のみなさん

とあつて本場さながらの踊りを披露しました。日南市からも中津キミ子さんが参加し、バレーボールに限らず、文化面でも交流が行われていることを感じられました。



上前田門中飢肥杉会館

飢肥杉会館 を視察

昔から那覇市と日南市は、飢肥杉の取り引きが盛んでありました。那覇市は台風銀座と呼ばれるくらい、台風の多い地域で、現在、鉄筋コンクリート造りの家屋が多く、木造住宅が少なくなっています。その中でも、飢肥杉を利用した建物が先程二棟完成し、

訪問団は視察を行いました。二棟は「首里金城村屋」と「上前田門中飢肥杉会館」で両施設とも飢肥杉をふんだんに使用し、特に金城村屋は釘を一本も使わない、沖縄の伝統的な建築法で建てられています。日南市と那覇市の交流を象徴する建物として、後世に伝えていかなければなりません。

のメインともいえる「那覇大綱挽」が行われました。国道58号に長さ百八十六尺、直径一尺五十センチ、重さ四十トンの綱が置かれ、約一万五千人の那覇市民や観光客などが綱を引き合いました。那覇まつりは延べ約二十八万人の人数でにぎわい、訪問団一行は市民と一体となった熱狂的な那覇まつりの素晴らしさを感じ取った様子でした。

十月十六日には、那覇市訪問団が来南し、飢肥城下まつりに参加しました。飢肥城下まつり初日のステージと翌日のパレードで「エイサー」を披露しました。勇ましく太鼓を叩くバチさばきに、大きな拍手が送られました。

今後も、家庭婦人バレーボール、少年野球、那覇少年の船なドスポーツ、文化などを通して行政、民間レベルで交流が盛んになり、きずなを深めていきたいものです。